

平成6年度 試験研究発表題名一覧表

研究室	題 名	著 者 名	書 名	巻・号	ページ	年・月
保護部長	吹上浜海岸砂丘の新植マツの根切虫被害	倉永善太郎 松浦 邦昭	森林防疫	43(11)	209～ 213	6. 11
	虹の松原汀線の激害木へのマツ材線虫病の感染	松浦 邦昭 池田 武典 中村 克裕 山下 佳晴	日林学会九州研論集	46	177～ 178	6. 9
造 林	Growth of dipterocarps forest and trees at Bukit Soeharto, East Kalimantan, Indonesia. (インドネシア、東カリマンタン、ブキートスハルトのフタハカキ科森林、樹木の生育)	清野 嘉之 Hastanah (インドネシア国教育文化省)	Annual report of PUSREHUT	3	1～ 166	5. 4
	東カリマンタンの熱帯降雨林の人為による変質－焼畑休閑林の事例－	清野 嘉之	熱帯林業	(29)	46～ 54	6. 1
	ミズメ個体群の更新機構と集団の成立条件	清野 嘉之 加茂 皓一 井 裕司 伊 宏樹	農林水産系生態秩序の解明と最適制御に関する総合研究(バイオコスモス計画)	平成3 年度報 告	134～ 135	4. 3
	天然生広葉樹二次林における間伐後の稚樹の初期成立状況	米田 吉宏 (奈良林試) 清野 嘉之 柴田 毅 (奈良林試) 和口 美明 (奈良林試)	日本林学会関西支部論文集	(1)	133～ 136	4. 5
	関西地域における樹木衰退の実態とその立地要因	清野 嘉之 加茂 皓一 井 裕司 鳥居 厚志	森林総研研究成果選集	平成3 年度	24～ 25	4. 9
	近畿地方と石川県のスギの衰退に関する環境要因	清野 嘉之 鳥居 厚志 加茂 皓一 井 裕司	大気汚染学会講演要旨集	32	276	3. 10
	多雪地のスギ人工林に混生する広葉樹の実態と取扱い	清野 嘉之	日本林学会大会発表論文集	102	545～ 546	3. 10
	ネズミサシの樹種特性(分布、資源状況、生態、育成法、遺伝特性)	清野 嘉之	森林総研研究会報告	(9)	53-55	3. 3
	ミズメ個体群の更新機構と集団の成立条件	清野 嘉之 加茂 皓一 井 裕司	農林水産系生態秩序の解明と最適制御に関する総合研究(バイオコスモス計画)	平成2 年度報 告	130～ 131	3. 3
	人工造林地に更新した有用広葉樹の育成技術	清野 嘉之	国有林野事業特別会計技術開発試験成績報告書	平成2 年度	245～ 267	3. 10
	Understory vegetation and distribution of seedlings and saplings of dipterocarp and Ulin (<i>Eusideroxylon zwageri</i>) in B. Soeharto experimental forest, East Kalimantan. (東カリマンタン、ブキートスハルト試験林の下層植被とフタハカキ、ウリン稚樹の分布)	清野 嘉之 Matius, P. (インドネシア国教育文化省)	海外林業部門業務報告書(森林総研)	平成3 年度	111～ 123	4. 3

研究室	題 名	著 者 名	書 名	巻・号	ページ	年・月
造 林	近畿地方における杉の衰退について	清野 嘉之	砺波散村地域研究所研究紀要	9	1~9	4. 2
	Proses regenerasi pada areal hutan bekas kebakaran dan bekas perladangan berpindah (火災と焼畑による生態系の復元と再生過程)	Hastaniah (インドネシア国教育文化省) 清野 嘉之	インドネシア教育文化省			5. 3
	Forest exploitation and succeeding vegetation in East Kalimantan, Indonesia (インドネシア、東カリマンタンの森林開発と後継植生)	清野 嘉之	JICA専門家報告(熱帯降雨林研究計画・)	1994 (2)	1~74	6. 5
	Forest conversion and the role of slash-and-burn agriculture - Lowland of Kalimantan, Indonesia (森林の転換と焼畑農業の役割-インドネシア、カリマンタン低地)	清野 嘉之 Hastaniah (インドネシア国教育文化省)	国際研究集会(アジアの熱帯林管理)プロシーディングス		1~11	6. 9
	A preliminary study of vegetation at Apau Kayan Plateau, East Kalimantan, Indonesia and Growth of trees and forests at Bukit Soeharto, East Kalimantan, Indonesia in 1993-1994 (インドネシア、東カリマンタン、アポウカヤン高原の植生、および1993-1994年のブキソハルトの樹木と森林の生育)	清野 嘉之	JICA専門家報告(熱帯降雨林研究計画・)	1994 (5)	1~74	6. 11
	スンカイ (Peronema canescens)	清野 嘉之	森林総研関西支所研究情報	(35)	2	7. 2
	Common plants of Kalimantan (1) <i>Macaranga triloba</i> and <i>M. gigantea</i> (Euphorbiaceae) (カリマンタンの普通植物(1)マカランカ・トリローバ、マカランカ・ギガンテア (トウタ・イク・サ科))	清野 嘉之	海外林業部門業務報告書	1994年度	53~61	7. 3
	Common plants of Kalimantan (2) <i>Shorea balangeran</i> (Dipterocarpaceae) (カリマンタンの普通植物(2)ショレア・ランゲラン(フタハ・カ・キ科))	清野 嘉之 Hastaniah (インドネシア国教育文化省)	海外林業部門業務報告書	1994年度	63~66	7. 3
	Common plants of Kalimantan (3) <i>Piper aduncum</i> (Piperaceae), <i>Eupatorium pallescens</i> (Compositae), <i>Melastoma malabathricum</i> (Melastomataceae), <i>Pteridium aulinum</i> , <i>Gleichenia linearis</i> , <i>Stenochlaena palustris</i> (Filicales) (カリマンタンの普通植物(3)ピペ・アドンクム(コショウ科)、ユーパ・トリウム・パレスセン(キク科)、メラストマ・マラバ・スリクム(ノボ・タン科)、フ・テリテ・イウム・アウイリス、ク・レイケニア・リネアリス、ステノクラエナ・パ・ルストリス(シタ・目))	清野 嘉之	海外林業部門業務報告書	1994年度	63~66	7. 3
	カリマンタンの低地の植物群落とバイオマスにおよぼす人為影響	清野 嘉之	カーボン・シンク・プロジェクト推進調査事業	平成6年度調査事業報告書	154~202	7. 3
	マダケ稈材密度の経時変化	井鷲 裕司	Bamboo Journal	12	1~5	6. 12
	マダケ林の炭素循環	井鷲 裕司 加茂 皓一 清野 嘉之 伊東 宏樹	森林総合研究所関西支所年報	(35)	27	6. 9

研究室	題 名	著 者 名	書 名	巻・号	ページ	年・月
造 林	竹林生態系の物質収支	井 鷲 裕 司 加 茂 皓 一 伊 東 宏 樹 清 野 嘉 宏 伊 東 一 之 樹	森林総合研究所研究 成果選集	平成5 年度	28~29	6. 9
	群落状態の常緑広葉樹アラ カシの成長解析 ー葉量および樹冠形に関す るアロメトリーー	伊 東 宏 樹 隅 田 明 洋 井 鷲 裕 司 加 茂 皓 一	日本林学会大会講演 要旨集	106		7. 4
	近畿地方の常緑広葉樹林の 現状について	伊 東 宏 樹 加 茂 皓 一 井 鷲 裕 司	森林総合研究所関西 支所年報	(35)		6. 9
	ヒノキ高齢林分の現存量と 非同化器官表面積	加 茂 皓 一 伊 東 宏 樹 家 原 敏 郎	森林総合研究所関西 支所年報	(35)	43	6. 9
	兵庫県の自然植生度	加 茂 皓 一 井 鷲 裕 司 伊 東 宏 樹 野 田 敏 郎	森林総合研究所関西 支所年報	(35)	35	6. 9
	上木根元付近におけるヒノ キ天然性稚樹の成立状態	加 茂 皓 一 家 原 敏 郎	日本林学会関西支部 大会研究発表要旨集	45	43	6.10
	Biomass and dry matter production of tropical pine forests in the Philippines and Thailand (フィリピンとタイにおける熱帯マツの現存量と生 産力)	加 茂 皓 一 Javing, A. L. (フィリピン大学) Kiatvuttinon, B. (タイ王室林野局)	IUFRO INTERNATIONAL SYMPOSIUM ON GROWTH AND YIELD OF TROPICAL FORESTS.			6. 9
	Growth dynamics of some broad-leaved tree species in central Thailand (中部タイの広葉樹種の成長動態)	加 茂 皓 一, Kiatvuttinon, B., Puriyakorn, B. (タイ王室林野局)	Vegetation Science in Forestry		515~ 528	7. 3
風致林管理	森林利用と環境保全の調和 ーグローバルな視野からー	杉 村 乾	森林サイエンスの現 状と今後の展望		400~ 403	6. 3
	森林の諸機能に対する兵庫 県住民の評価	杉 村 乾	日本林学会大会講演 要旨集	105	564	6. 4
	補助金と自然環境の保全 ー奄美大島からの提言ー	杉 村 乾	政経NEWS	66	6~10	6. 8
	高度経済成長と日本の森林	杉 村 乾	WWF	212	10	6.10
	環境科学の視点から見た奄 美大島の野生鳥獣種の保護	杉 村 乾	チリモス	5	20-26	6. 9
	原生的な森林の保全に対す る支払意欲額 ー兵庫県内の2地域に おける事例研究ー	杉 村 乾	森林総合研究所関西 支所年報	(35)	34	6. 9
	住民意識と立地環境評価の 総合化による森林機能配置 計画 ー兵庫県南部に おける試みー	杉 村 乾	環境研究発表会予稿 集	8	23~24	6.11
	森林開発とアマミノクロウ サギの保護問題	杉 村 乾	関西自然保護機構会 報	16	117~ 121	6.12

研究室	題 名	著 者 名	書 名	巻・号	ページ	年・月
風致林管理	緑資源の機能別類型区分手法	杉村 乾	緑資源の総合評価による最適配置計画手法の解説		45～49	7. 2
	地理情報処理システムによる緑資源情報の共通利用法の開発	野田 巖	日本林学会関西支部論文集	3	21～24	6. 3
	森林風致の計量化	野田 巖	森林サイエンスの現状と今後の展望 ー21世紀へのアプローチー		100～103	6. 3
	樹冠の三次元モデルとCGによる日照シミュレーション	野田 巖	森林総合研究所関西支所年報	(35)	54	6. 9
	腐葉土生産を通じた里山利用と落ち葉供給システム	安原加津枝 柳幸 広登 堀 靖人	日本林学会大会講演要旨集	105	182	6. 4
	保護林制度における生物群集の保全の現状	安原加津枝 奥 敬一 田中 伸彦	造園雑誌	57(5)	193-198	6. 3
	葉タバコ生産を通じた里山利用の変遷	安原加津枝	森林総合研究所関西支所年報	(35)	32	6. 9
	環境への認識を高める手法としてみた東京都内の都市散策路	奥 敬一 下村 彰男 熊谷 洋一	造園雑誌	57(5)	385～390	6. 3
	生物群集の保全地域におけるレクリエーション利用の可能性 ー大阪営林局内の保護林を対象としてー	奥 敬一 安原加津枝	日本林学会大会発表論文集	105	195～197	6. 10
	トラベルコスト法による保健休養機能評価の試み	奥 敬一 杉村 乾	森林総合研究所関西支所研究情報	(33)	2	6. 8
	嵐山での観光需要調査におけるトラベルコスト法の適用	奥 敬一 杉村 乾	森林総合研究所関西支所年報	(35)	33	6. 9
土 壌	滋賀県油日上野共有生産森林組合ヒノキ林	荒木 誠	森林と肥培	160	12～14	6. 12
	雨滴衝撃の推定値による表土流亡の危険度判定手法の検討 (I)	荒木 誠	日本林学会関西支部論文集	4	63～64	7. 3
	京都府南部地域における竹林の分布拡大について	鳥居 厚志	林学会大会講演要旨集	105	458	6. 4
	里山は竹林で被われる?	鳥居 厚志 井 鷺 裕司	森林総合研究所関西支所研究情報	32	3	6. 5
	タケ類の植物珪酸体含有率と年間生産量	鳥居 厚志 井 鷺 裕司	第四紀学会講演要旨集	24	116～117	6. 8
	京都府南部の丘陵地にみられる竹林の分布拡大について	鳥居 厚志	森林総合研究所関西支所年報	(35)	26	6. 9
	わが国の土壌の酸性化に関する研究事例	鳥居 厚志	環境技術	23	10～13	6. 12

研究室	題 名	著 者 名	書 名	巻・号	ページ	年・月
土 壌	ブラジルサンパウロ州アグ ア、ダ、カショエイラ川沿 いの土壌分布様式およびア シス試験地の土壌（英文）	金子 真司 アルヴァ フランシスコ マルケス	海外業務報告書	平成5 年度	53～67	5. 2
	スギ樹幹流中の有機酸存在 の推定	金子 真司 荒木 誠 鳥居 厚志	日本林学会関西支部 論文集	4	63～64	7. 3
	スギ樹幹流中の有機炭素濃 度の簡易測定法	金子 真司	日本林学会誌	77	179～ 180	7. 3
	ヒノキ幼齢林における林地 肥培効果	金子 真司 鳥居 厚志 荒木 誠	森林総合研究所関西 支所年報	(35)	36	6. 9
防 災	京都市周辺地域の樹皮中の 無機成分濃度	金子 真司	日本林学会大会要旨 集	105	411	6. 4
	山火事跡地の地表被覆の違 いが侵食土砂量に及ぼす影 響	後藤 義明 服部 重昭 玉井 幸治	森林総合研究所関西 支所年報	(35)	29	6. 9
	瀬戸内海沿岸地域のアカマ ツ林火災の特徴	後藤 義明	山林	(1330)	45～52	7. 3
	落葉広葉樹林における林床 面蒸発のモデル化と流域へ の適用	玉井 幸治 服部 重昭	日本林学会誌	76(3)	233～ 241	6. 5
	林床面蒸発の季節変化 ー落葉広葉樹林の場合ー	玉井 幸治	森林総合研究所関西 支所研究情報	33	3	6. 8
	落葉広葉樹二次林における 林床面蒸発量の季節変化	玉井 幸治 服部 重昭 後藤 義明	森林総合研究所関西 支所年報	(35)	31	6. 9
	Characteristic of canopy conductance of a deciduous broad-leaved forest. (落葉広葉樹林における幹葉コンダクタンス の特性)	玉井 幸治 服部 重昭	Proceedings of the International Symposium on Forest Hydrology		147～ 154	6. 10
	Characteristics of water balance in a deciduous secondary forest. (広葉樹二次林における水収支特性)	服部 重昭 玉井 幸治	Proceedings of the International Symposium on Forest Hydrology		577～ 584	6. 10
	水資源賦存量の計算モデル	服部 重昭 後藤 義明 玉井 幸治	森林総合研究所関西 支所年報	(35)	30	6. 9
経 営	《岐阜県八幡町森林組合》 技術向上で組合員の信頼感 高まる	野田 英志 田村 和也	きりひらく道Ⅱ		29～37	5. 3
	国産材加工（プレカット） 施設の整備計画	野田 英志	林業山村活性化林業 構造改善事業計画診 断書、三重県宮川流域国産材加工 施設整備事業（プレカット施設）		42～81	6. 3
	木材市売市場における木材 の取引・決済方法に関する 調査報告 ーアンケート分析結果ー	野田 英志	高度加工木製品物流 拠点等整備基礎調査 (木材市売市場における取引方法等の実 態調査報告書)		3～78	6. 3

研究室	題 名	著 者 名	書 名	巻・号	ページ	年・月
経 営	D I Y材 ー余暇の増大とともにー	野田 英志	新・木材消費論 ー生産・加工・流通 の現状と未来ー		89～ 114	6. 6
	「木材需給報告書」でみる “流動化”	野田 英志	木材情報	39	6～9	6. 8
	D I Y材の市場と流通	野田 英志	森林総合研究所関西 支所年報	(35)	47	6. 9
	住宅用木材需要	野田 英志	林産経済学 ー現代の林学11ー		1～18	6. 10
	国産材需給の新しい動きと 方向	野田 英志	森林総合研究所関西 支所研究情報	34	2	6. 11
	ヒノキ人工林施業における 育林投資採算性の評価	家原 敏郎	森林総合研究所研究 成果選集	平成 5 年度	34～35	6. 9
	兵庫県南部における緑資源 の地帯区分	家原 敏郎	森林総合研究所関西 支所年報	(35)	40	6. 9
	ヒノキ無間伐林分と間伐実 行林分の収益性比較	家原 敏郎	森林総合研究所関西 支所年報	(35)	41	6. 9
	アカマツ無施業林分と間伐 を行った林分の成長比較 ー西山アカマツ収穫試験地 の成長経過の総括ー	家原 敏郎	森林総合研究所関西 支所年報	(35)	49-52	6. 9
	緑を守る林業経営 ー長伐期を考えるー	家原 敏郎	森林総合研究所研究 成果発表会講演要旨 集	平成 6 年度	7-11	6. 10
	ヒノキ長伐期多間伐施業の 収益性	家原 敏郎	山 林	(1327)	29～35	6. 12
	ヒノキは長伐期多間伐施業 が有利 ー評価法を開発ー	家原 敏郎	現代林業	(334)	51～52	7. 2
	緑資源の地帯区分手法	家原 敏郎	緑資源の総合評価に よる最適配置計画手 法の開発		39～44	7. 2
	緑資源の最適配置計画の策 定	田村 和也	日本林学会大会講演 要旨集	105	504	6. 4
	緑資源の最適配置計画手法	田村 和也	緑資源の総合評価に よる最適配置計画手 法の解説		50～56	7. 2
	竹材生産業者の現状	田村 和也	日本林学会関西支部 論文集	3	13～14	6. 3
	山村を巡る変化の現在と未 来	田村 和也	林業経済研究	(126)	114～ 115	6. 11
	根元と胸高における年輪幅 の相関 ー豪雪地帯のスギ造林木 の例ー	細田 和男	日本林学会関西支部 論文集	4	137～ 138	7. 3
樹 病	カナメモチごま色斑点病の 薬剤防除試験	伊藤進一郎 有田 勝彦	日本林学会大会講演 要旨集	105	100	6. 4

研究室	題 名	著 者 名	書 名	巻・号	ページ	年・月
樹 病	福井県におけるナラ類集団枯損と穿孔虫	井上 重紀 浦野 忠久 伊藤進一郎	日本林学会大会講演要旨集	105	103	6. 4
	兵庫県におけるナラ類集団枯損	塩見 晋一 伊藤進一郎	日本林学会大会講演要旨集	105	105	6. 4
	ナラ類に対するカシノナガキクイムシの穿孔と菌の分布	加藤 肇 浦野 忠久 黒田 慶子 伊藤進一郎	日本林学会大会講演要旨集	105	487	6. 4
	感染の程度および樹齢がヒノキ樹脂腺枯病の被害進展に及ぼす影響	山田 利博 伊藤進一郎 塩見 晋一 国分 義彦	日本林学会誌	76	270~ 275	6. 5
	ヒノキ漏脂病の原因究明に向けて	伊藤進一郎	森林総合研究所関西支所研究情報	(32)	1	6. 5
	岐阜県に発生したカラマツつちくらげ病	野平 照雄 伊藤進一郎	日本林学会大会論文集	105	511~ 512	6. 10
	ヒノキ樹脂腺枯病における初期の感染程度と被害の進展	伊藤進一郎 山田 利博	森林総合研究所所報	73	4~5	6. 10
	関西地域の日本海側に発生するスギ梢端枯れ被害	伊藤進一郎 荒木 誠 服部 重昭	森林総合研究所関西支所年報	35	23	6. 9
	スギ黒心材形成に関わる微生物の検討	伊藤進一郎 黒田 慶子	森林総合研究所関西支所年報	35	44	6. 9
	スギ黒心材形成要因検討-枝打など傷害の関与-	黒田 慶子 伊藤進一郎	森林総合研究所関西支所年報	35	45	6. 9
	ヒノキ幹の加齢による <i>Seiridium unicorne</i> 感染に対する抵抗性増大の要因	山田 利博 伊藤進一郎	日本林学会誌	77	66~71	7. 1
	キバチ属 (<i>Urocetus</i>) 2種の共生菌胞子貯蔵器官から分離された菌類	佐野 明 三原 由美 伊藤進一郎	日本林学会中部支部論文集	43	125~ 126	7. 3
	傷害組織を利用したヒノキ樹幹肥大成長の測定	黒田 慶子 清野 嘉之	日本林学会大会講演要旨集	105	262	6. 4
	樹木の解剖学(4)ブナ	黒田 慶子	森林総合研究所関西支所研究情報	(32)	4	6. 5
昆 虫	生け捕り用トラップによるオオコクヌスト成虫の生態調査	細田 隆治	森林総合研究所関西支所研究情報	(35)	3	7. 2
	マツノマダラカミキリの捕食者オオコクヌスト成虫の飼育	細田 隆治 伊藤進一郎 藤田 賢和	森林総合研究所関西支所年報	(35)	39	6. 9
	オオコクヌストの生態(Ⅱ)-誘引トラップによる成虫の捕獲消長と雌雄の判別法-	細田 隆治 上田 明和 藤田 幸久 浦野 忠久 伊藤進一郎 五十嵐 正俊	日本林学会関西支部論文集	4	171~ 172	7. 3

研究室	題 名	著 者 名	書 名	巻・号	ページ	年・月
昆 虫	ドングリを食べる虫達 (3) ガ類	上田 明良	森林総合研究所関西 支所研究情報	(35)	4	7. 2
	Two new species of <i>Aceraius</i> (Coleoptera, Passalidae) from Sabah, Borneo (ボルネオ島、サバ州における甲虫目クロツヤ ムシ科 <i>Aceraius</i> 属の2新種の記載)	近 雅博 (京大) 上田 明良 常喜 豊 (昭和女子大)	The Japanese Journal of Systematic Entomology	1(1)	99~ 104	7. 3
	マツノマダラカミキリの幼 虫休眠と日長・温度の関係	上田 明良 遠田 暢男	日本林学会関西支部 論文集	4	163~ 166	7. 3
	オオコクヌストの生態 (Ⅲ) ー産卵と発育の経過ー	上田 明良 細田 隆治 藤田 和幸 浦野 忠久	日本林学会関西支部 論文集	4	173~ 176	7. 3
	ドングリを食べる虫達 (1) ハイイロチョッキリ	上田 明良	森林総合研究所関西 支所研究情報	(33)	4	6. 8
	ドングリを食べる虫達 (2) ソウムシ類	上田 明良	森林総合研究所関西 支所研究情報	(34)	4	6. 11
	カシノナガキクイムシのナ ラ健全木における穿入密度 と枯損発生の関係	浦野 忠久 藤田 和幸 伊藤進一郎	森林総合研究所関西 支所年報	(35)	24	6. 9
	カシノナガキクイムシのナ ラ健全木における穿入密度 および捕獲数と枯損発生の 関係	浦野 忠久 藤田 和幸 伊藤進一郎 井上 重紀 (福井県総合ク リーンセンター)	日本林学会論文集	105	443~ 444	6. 10
鳥 獣	Resource utilization in response to host size in two ectoparasitoid wasps on subcortical beetles. (穿入虫の2種寄生ハチにおける寄主サイズに 応じた資源利用と性比分配)	浦野 忠久 肘井 直樹 (名古屋大学)	Entomologia Experimentalis et Applicata	74	23~35	7. 1
	Infectivity and pathogenicity of <i>Yersinia enterocolitica</i> Seroovar 0:8 to wild rodents in Japan (日本産野ネズミに対するエルシニア(0:8)菌 の病原性と伝染性)	林谷 秀樹 (農工大獣医) 北原 英治 小川 益男 (農工大獣医)	Journal of Veterinary Medicine B. (Blackwell Wissenschafts -Verlag, Berlin)	(41)	504~ 511	6.
	哺乳類の排卵様式について	北原 英治	森林総研関西支所研 究情報	(34)	3	6.
	ツキノワグマによる林木被 害とその防除について	北原 英治	森林総研関西支所研 究研究成果発表会			6.
	ツキノワグマによる林木被 害とその防除について	北原 英治 井上 重紀 (福井県総合 グリーンセンター) 今井三千穂 (福井県総合 グリーンセンター) 山田 文雄 島田 卓哉 小泉 透 (九州、農大)	日本林学会発表要旨	106		6.

研究室	題 名	著 者 名	書 名	巻・号	ページ	年・月
鳥 獣	Mate preference in anadromous and nonanadromous Dolly Varden (<i>Salvelinus malma</i>) females in two Alaskan streams. (アラスカの2河川における降海型と非降海型の雌オシロコマの配偶者選択性)	前川 光司 (中央大学) 日野 輝明 中野 繁 (北大) W. W. Smoker (Univ. of Alaska)	Canadian Journal of Fisheries and Aquatic Sciences	(51)	2375~2379	6. 4
	動物と植物の利用しあう関係	日野 輝明	個体群生態学会報	(51)	83~84	6. 7
	アユのなわばりサイズのきまり方	井口恵一朗 (中央大学) 日野 輝明	日本動物行動学会講演要旨集	13		6.12
	清澄山地におけるホンシュウジカの社会構造	島田 卓哉	日本哺乳類学会講演要旨集	1990		1990.10
	房総半島におけるニホンジカのグループサイズ・構成の季節変化	島田 卓哉	日本生態学会講演要旨集	1992		4. 4
	ニホンジカのグループ構成のダイナミクスに関する研究	島田 卓哉	日本生態学会関東地区会講演要旨集	1992		5. 3
	ヒメネズミの褐色脂肪組織重量の季節変化—富士東斜面における標高の異なる3地点の比較—	島田 卓哉	日本哺乳類学会講演要旨集	1994		5. 3

(1) 沿革

関西支所

- 昭和22. 4 林政統一による機構改革に伴い、林業試験研究機関を整備することになり、大阪営林局内の試験調査部門を編成替のうえ、農林省林業試験場大阪支場として局内に併置される
- 昭和25. 4 京都市東山区七条大和大路に大阪支場京都分室設置さる
- 昭和27. 7 京都分室を廃止し、そのあとに支場を移転し京都支場と名称を改む
- 昭和28. 2 新たに伏見区桃山町に支場庁舎敷地として国有林の所属替をうけ、同時に桃山研究室を設置
- 昭和31. 3 庁舎・研究室を新設・移転
- 昭和34. 7 関西支場と名称を改む
- 昭和40. 3 研究室等を増改築
- 昭和41. 4 部制設置（育林・保護の2部）
- " 防災研究室を岡山試験地から移転
- 昭和51.11 庁舎・研究室（昭和31. 3新築のもの）を改築
- 昭和57.12 鳥獣実験室を新築
- 昭和59.12 治山実験室を新築
- 昭和62.12 森林害虫実験棟（旧昆虫飼育室）を建替え
- " 危険物貯蔵庫を建替え
- 昭和63. 3 ガラス室、隔離温室を建替え
- 昭和63.10 林業試験場の組織改変により森林総合研究所関西支所と名称を改む
- " 風致林管理研究室を育林部に新設
- " 調査室を連絡調整室と名称を改む
- 平成元.12 粗試料調整測定室を新築
- 平成4. 3 風致林管理実験棟を新築
- 平成4. 4 鳥獣研究室を保護部に新設
- 平成5.12 森林微生物生理実験棟を新築

岡山試験地

- 昭和10. 8 岡山市上道郡高島村に水源涵養試験地として設置
- 昭和12.12 林業試験場高島試験地と名称を改む
- 昭和22. 4 林業試験場大阪支場の所管となり、同支場高島分場と名称を改む
- 昭和27. 7 林業試験場京都支場高島分場と名称を改む
- 昭和34. 7 林業試験場関西支場岡山分場と名称を改む
- 昭和41. 4 林業試験場関西支場岡山試験地と名称を改む
- 昭和60.12 試験地無人化となり事務所を閉鎖する
- 昭和63. 9 旧庁舎、宿舍など施設を取壊す
- 昭和63.10 林業試験場の組織改変により試験地廃止さる

(2) 土地および施設

1. 土 地

関西支所敷地	64,117㎡
内訳	
庁舎	(9,621)
苗木樹木	(10,923)
見本林・実験林等	(5,831)
その他の施設	(35,321)
宿舎敷地	(2,421)
島津実験林	4,000
宇治実験林	7,045
岡山実験林	3,812
	13,337
計	92,311㎡

2. 施 設 (延べ面積)

庁舎	3棟	2,275㎡
内訳		
研究室(本館)		(1,507)
"(別館)		(628)
機械室		(140)
温室	1棟	85
ガラス室	1"	56
隔離温室	1"	124
殺菌培養室	1"	48
樹病低温実験室	1"	91
森林害虫実験棟	1"	219
森林微生物生理実験棟	1"	118
鳥獣実験室	1"	139
治山実験室	1"	157
粗試料調整測定室	1"	124
材線虫媒介昆虫実験室	1"	41
風致林管理実験棟	1"	260
事務連絡所	1"	223
その他の	9"	330
宿舎	4"	970
計	29棟	5,260㎡

(3) 組 織

(平成7年3月31日現在)



(4) 人の動き

(平成7年3月31日現在)

6. 4. 1 付 連絡調整室に 保護部昆虫研究室に	新 本	規 採	用 所	楢 山 真 司 上 田 明 良					
6. 5. 1 付 育林部経営研究室に 保護部鳥獣研究室に	本 本		所 所	細 田 和 男 島 田 卓 哉					
6. 6. 1 付 育林部造林研究室に職務復帰	海 外	派 遣	職 員	清 野 嘉 之					
6. 6. 23 付 連絡調整室研究情報専門官に 庶務課庶務係長に 庶務課用度係長に	庶 本 庶	務 務 務	課 課 課	用 度 係 係 係	長 所 長	藤 川 三	木 村 浦	修 栄 秀	次 司
6. 8. 1 付 本所総務部監査官に 本所企画調整部企画科企画室へ 庶務課庶務課長に 庶務課庶務係に 庶務課会計係に 庶務課用度係に	庶 庶 本 連 庶 庶	務 務 務 絡 務 務	課 課 課 調 課 課	庶 務 課 庶 務 課	長 係 所 室 係 係	加 戸 中 清 米 小	藤 石 野 水 田 林	秀 亮 鷹 達 和 宏	春 介 也 彦 忠
6. 10. 1 付 退職 支所長に 木曽試験地主任研究官に	支 四 保	所 国 護	長 所 室	林 陶 伊	寛 正 雅	憲 道			
7. 3. 16 付 庶務課会計係に 庶務課用度係に 育林部土壌研究室に 九州支所育林部経営研究室に 本所林業経営部資源解析研究室	庶 九 本	務 州 育 務 林	課 支 部 用 度 風 致 林 管 理 研 究 室 育 林 部 經 營 研 究 室	係 所 所	五 椎 古 野 家	寶 木 澤 田 原	真 治 美 巖 敏 郎		
7. 3. 31 付 退職	保 護	部 昆 虫 研 究 室		細 田 隆 治					

(5) 会 議 の 開 催

1. 関西地区林業試験研究機関連絡協議会総会

森林総合研究所関西支所、四国支所の管内2府16県の公立林業関係試験研究機関、林木育種センター関西林木育種場、森林総合研究所関西支所、四国支所など22機関の長を会員として構成された協議会であり、年一回総会が開催される。平成6年度の第47回総会は、広島県立林業試験場の企画により5月31日・6月1日の両日に渡って広島市及び広島県立中央森林公園（本郷町）で開催された。

会議は国の機関ならびに全国林業試験研究機関連絡協議会の中央における林業試験研究関係の動向が紹介され、ついで各研究専門部会（9部会）から活動の状況と今後の計画が報告、提案された。この中で主な協議事項は、懸案である専門部会の運営について育林・樹木保全・育苗の3部会の統合が提起され、本年度各部会の総会で討議・結論を得られるよう検討を進めることとなった。

2. 林業研究開発推進近畿・中国ブロック会議

この会議は、林業研究開発推進会議要領に基づいて毎年開催されている。平成6年度の会議は京都市呉竹文化センター会議室において、10月12日開催された。

会議には、府県側から近畿・中国地区2府12県の林務部局担当者及び林業試験研究機関の長が、また、国側から大阪営林局、林木育種センター関西育種場の関係者ならびに林野庁指導部研究普及課の西村研究企画官、野畑研究情報係長、森林総研の加藤研究管理官及び関西支所関係職員が出席した。

会議はまず林野庁、森林総研から挨拶のあと議事に入り、新規事業等の概要を林野庁から、試験研究及び技術開発の動向について森林総研、関西育種場、大阪営林局からそれぞれ紹介がされた。つづいて各府県から主要な研究の成果19題が報告され、近畿・中国ブロックにおける重要研究課題の成果として8課題を摘出した。さらに技術開発に関する要望課題が各府県から提案され討論が行われた。

その分野別主な課題は次のとおりである。

造 林 分 野	広葉樹樹林の更新に関するもの2題。
育 種 分 野	組織培養による遺伝資源の収集・保存・増殖に関するもの3題。
土壌・防災分野	針葉樹人工林における水土保全機能回復技術の開発及び体系化に関するもの1題。
経 営 分 野	都市近郊林の保全活用システムの開発、森林の評価と適正配置手法技術の開発など2題。
保 護 部 門	ナラ類の集団枯損被害の原因究明と防除技術に関するもの6題。野生獣類の個体数管理と森林被害回避技術に関するもの4題。
特 産 部 門	野生きのこの栽培化と優良系統の安定生産技術の開発に関するもの9題。
木材・林産部門	地域産木材を利用したエクステリア部材の開発に関するもの6題。

これらの課題を中心とした討論の結果、近畿・中国ブロックにおける今年度の地域重要課題として、次の5課題を摘出した。

- 1) 林木遺伝資源の収集・保存・増殖
- 2) 野生きのこの栽培と既存優良系統の安定生産技術の開発
- 3) ナラ類の集団枯損に関する調査
- 4) 被害回避を目指した野生獣類の生息環境と密度の管理手法に関する調査
- 5) 地域産材を用いたエクステリア部材の開発に関する調査

3. 関西支所研究成果発表会

研究成果発表会は、関西支所の研究者によって得られた研究の成果を広く利活用してもらうため公開で行われており、今年度は第9回目にあたり10月13日京都市呉竹文化センター会議室において府県関係者、国有林及び民有林関係者、一般市民など多数の出席を得て開催された。

発表会は、まず森林総研森林環境部 堀田立地環境科長 による「わが国における酸性雨と森林衰退の研究動向」と題した特別講演があり、つづいて支所研究者2名による研究成果の発表と討論が行われた。発表した研究成果の概要は「研究成果発表会記録」としてP.49～P.50に集録した。

また、同時にポスターセッションによる3題の発表「緑資源の総合評価による最適配置計画手法の開発」（育林部長：小谷圭司他）「シイ・カシのドングリを加害する昆虫類とその加害量」（昆虫研究室：上田明良）「ツキノワグマによる林木被害とその防除について」（鳥獣研究室：北原英治）を行い、ニーズ性・地域性に富んだ課題であり好評を得た。

4. 関西支所研究検討会・研究推進会議

本年度は、研究基本計画の改訂が行われ、新たな研究問題Ⅺについての初年度に当たる会議である。

研究検討会は、2月9日・10日の両日、研究者全員出席のもと支所会議室において開催し、大課題ごとの研究成果個表に基づき、各担当研究者が研究の進捗状況、成果及び今後の計画などについて報告を行い検討された。

49課題が実行され、うち12課題が完了、次年度からの新規課題として7課題、重要研究課題素材として5課題提案、討議され4課題が研究推進会議にそれぞれ報告、検討されることとなった。

研究推進会議は、2月21日支所会議室で開催された。大課題責任者から研究検討会で討議された結果の報告が行われ、検討・評価・調整を行い、主要な研究成果5課題、速報4課題を選定、新規課題として7課題設定され、重要研究課題素材として4課題の摘出を行った。

ひきつづき特別検討事項に移り、まず「研究基本計画の新策定要領について」検討を行い、研究基本計画の策定要領と細部の考え方、森林総研における研究基本計画改訂に係わる基本的認識、新研究基本計画の姿、改訂手順とスケジュールなどについて、この会議に本所から出席された、太田研究管理官の説明がなされ、活発な論議が展開された。

つづいて「関西支所における試験地利用の現状と問題点」では、各研究室における試験地に係る過去からの経緯、現状、問題点など報告され、それぞれについて実態と問題点を明らかにするための論議が活発に展開された。

また、3月1日には、平成7年度から開始されるプロジェクト研究（環境庁：公害防止地域密着研究）「湖沼の有機汚濁物質による水質汚濁対策に関する研究」（略称：湖沼水質）の研究設計会議を、農林水産技術会議企画調査課 赤間 研究調査官・連絡調整課 糸瀬 地域環境研究係長、本所森林環境部 堀田 立地環境科長、学識経験者として滋賀県立短期大学 國松 教授及び支所の関係者を含め、支所会議室にて開催し、全期間の研究推進方向と初年度の実施方針について討論、確認された。

(6) 受託研究等調査・指導

用 務	受 託 者	用 務 先	実施月日	出 張 者	
				研究室	氏 名
「近畿バイオセミナー IN MIE」 の開催にかかる分科会の座長の派遣	三重県知事	三 重 県 津 市	6.10.31 } 11. 1	育林部長	小谷圭司
沖美地区地域生活基盤整備総合 治山事業現地調査指導	社団法人 広島県森林 協会	広 島 県 沖 美 町	6.10.21 } 22	支 所 長	陶山正憲
シカ生息状況調査に係る専門調 査員の派遣	香川県環境 保健部長	香 川 県 小 豆 島	6.11. 7 } 11	鳥獣研究 室 長 室 員	北原英治 島田卓哉
福井県「採種園カメムシ等防除 対策検討委員会」の開催について	福井県総合 グリーンセ ンター所長	福 井 県 丸 岡 町	7. 3. 9 } 10	保護部長	松浦邦昭
平成6年度受託研究等に係る現 地調査指導の依頼について	財団法人 林業土木施 設研究所	鹿児島県	7. 3. 7 } 10	支 所 長	陶山正憲

(7) 国内留学

氏 名	留 学 先	留 学 期 間	課 題

(8) 当所職員研修

氏 名	研 修 先	研 修 期 間	研 修 内 容
島田 卓哉 細田 和男	森林総合研究所関西支所 "	6. 5. 1～6. 9. 30 "	平成6年度新規採用研究員専門 別研修
川村 栄 板野和男	大阪合同庁舎第4号館 "	6. 7. 21 6. 7. 22	給与実務担当者研修会 "
川村 栄	大阪合同庁舎第2号館 京都厚生年金休暇センター	6. 9. 19・20・26～29 6. 9. 21・22	第24回係長研修
奥 敬一 島田 卓哉	ECC外語学院 "	6. 10. 3～7. 3. 13 "	英語研修 "
玉井 幸治	森林総合研究所 森林政策部 防災科気象研究室	6. 10. 31～6. 11. 4	平成6年度所内短期技術研修
清水 達也	日本赤十字社大阪府支部 大阪合同庁舎第2号館 石清水八幡宮 青少年文化体育研修センター	6. 11. 1～6. 11. 2 6. 11. 14・17・18 6. 11. 14・16	第42回中堅係員研修 " "
川村 栄	アピオ大阪	6. 11. 10	災害補償実務担当者研修会

(9) 技術研修受け入れ

氏 名	所 属 機 関	研 修 期 間	研 修 内 容
尾崎 真也	兵庫県 林業試験場	6. 9. 1～6. 9. 30	森林の更新様式についての研究 手法の取得
安食 陽二	島根県 川本農林振興センター	6. 9. 1～6. 9. 30	広葉樹林施業の関する基礎知識 の取得と情報の収集
田戸 祐之	山口県 林業指導センター	6. 9. 1～6. 11. 30	森林病害一般についての研究手 法の修得
今井三千穂	福井県 総合グリーンセンター	6. 8. 1～6. 10. 31	森林病害一般についての研究手 法の修得

(10) 海 外 出 張

氏 名	出張先	出張期間	研究課題
荒木 誠	タンザニア	6. 4. 8～ 5. 17	タンザニア・キリマンジャロ村落林業計画フェーズⅡに係る短期専門家
服部 重昭	中 国	6. 6. 15～ 7. 20	中国黄土高原治山技術訓練計画に係る短期専門家
日野 輝明	マダガスカル 共 和 国	6. 9. 24～ 12. 6	オオハシモズ類の社会進化（種間関係）の調査研究
伊藤進一郎	マレーシア	6. 11. 17～ 12. 26	マレーシア国複層林施業技術現地実証調査短期派遣専門家

(11) 海 外 派 遣

氏 名	派遣先	派遣期間	研究課題
清野 嘉之	インドネシア	4. 2. 26～ 6. 5. 31	インドネシア熱帯降雨林研究計画

(12) 国 際 研 究 集 会

氏 名	行 先	派遣期間	研究集会名

(13) 見 学 者

		内 訳						計
		国	府 県	大 学	小 中 高	林業団体	一 般	
国	件数	19	17	3	3	24	13	79
内	人数	29	30	86	115	84	25	369
国 外		モロッコ：5, ブラジル：6, 韓国：28, 中国：6, オーストラリア：1, メキシコ：18, 台湾：5, タイ：2, マレーシア：10, インドネシア：6						88

(14) 試験地一覧表

試験地名	営林署	担当区	林小班	樹種	面積 (ha)	設定 年度	終了 予年度	担当 研究室
高取山スギ人工林皆伐用材林 作業収穫試験地	奈良	下市	56ほ 49ほ	スギ	0.60	昭10	平12	経営
高取山ヒノキ人工林	"	"	56ほ	ヒノキ	0.40	"10	"9	"
高野山スギ人工林	"	高野	31ろ	スギ	0.17	"10	"17	"
高野山ヒノキ人工林	"	"	31ろ	ヒノキ	0.25	"10	"25	"
滝谷スギ人工林	"	山崎	136に	スギ	2.25	"11	"32	"
新重山ヒノキ人工林	"	福山	49と	ヒノキ	1.05	"12	"28	"
遠藤スギその他択伐用材林作 業収穫試験地	津山	上斉原	39ろ	スギ	1.67	"12	"69	"
西山アカマツ天然林皆伐用林 作業収穫試験地	広島	河内	1,032い	アカマツ	1.02	"12	"8	"
滑山スギ人工林	"	山口	11り	スギ	1.60	"13	"28	"
奥島山アカマツ天然林面伐用 材林作業収穫試験地	大津	八幡	79は	アカマツ	1.75	"13	"29	"
地獄谷アカマツ天然林その他 択伐用材林	奈良	郡山	17わ	アカマツ スギ・ヒノキ	1.73	"15	"54	"
篠谷山スギ人工林皆伐用材林	倉吉	根雨	1,015い	スギ	0.80	"34	"25	"
茗荷沢山ヒノキ人工林	"	新宮	41へ	ヒノキ	0.17	"35	"62	"
白見スギ人工林	"	新宮	5ほ	スギ	1.24	"37	"43	"
六万山スギ人工林	"	金沢	55は	スギ	0.79	"37	"57	"
西条保育形式試験地	広島	志和	11へ	アカマツ	2.15	"33	"6	造林
福山	福山	上下	16へ	スギ	2.25	"33	"6	"
吉永植栽比較試験地	岡山	和気	1,005ほ	スギ他5	1.54	"41	"8	"
林地肥培西条(クロマツ)試験 地	広島	河内	1,026に	クロマツ ヒノキ	0.32	"39	"7	土壌
竜の口山量水試験地	岡山	岡山	11ほ・に・は	アカマツ他	44.99	"10	"8	防災
馬乗山試験地	福山	大野	69ち	スギ・ヒノキ	6.50	"43	"7	造林
焼尾試験地(ヒノキ)	三重	阿山	72に	ヒノキ	0.15	"59	"6	土壌
青岳試験地(ヒノキ)	"	"	81ほ	ヒノキ	0.30	"59	"6	"
複層林施業試験地	大津	大津	20わ	ヒノキ	0.24	"59	"6	造林
竹林施業技術の改良試験地	京都	木津	523い	マダケ	0.31	"60	"14	"
針広混交誘導試験地	神戸	箕面	72ほ・り	ヒノキ	1.50	"60	"7	造林
北谷水文試験地	京都	木津	509い	広葉樹	51.60	"63	"10	防災
坂ノ谷ミズメ個体群更新機構 試験地	山崎	和田山 奥山谷		広葉樹		"63	"6	造林
嵐山国有林風致試験地	京都	嵐山	38	スギ他	59.03	平元	"10	風致林

試験地名	担当区	面積 (ha)	設定 年度	終了 予年度	担当 研究室
京都市山科区御陵大谷町林野火災跡地 植生回復経過試験地	京都市上下水道事業管理者	0.022	平6	平16	防災

(15) 気象年報

6 年 月	気温℃ (測高 120cm)							気温別日数 (測高 120cm)				
	平均	平均	平均	最高	起日	最低	起日	最 高		最 低		
	9 h	最高	最低					< 0℃	≥ 25℃	< -10℃	< 0℃	≥ 25℃
1	2.5	10.1	0.6	15.1	11	-2.5	20				16	
2	4.0	9.6	1.0	17.2	19	-1.7	15				8	
3	6.7	12.7	2.0	20.5	31	-1.4	2				8	
4	14.2	21.2	8.6	27.4	6	1.7	11		4			
5	20.1	26.2	14.0	31.0	23	8.2	15		21			
6	23.2	28.6	18.2	34.2	27	14.0	7		25			
7	29.4	35.2	24.6	38.6	31	22.2	4		31			12
8	30.5	36.6	24.7	42.0	7	21.3	29		31			14
9	24.4	31.1	20.4	36.9	1	14.2	28		26			
10	19.1	25.2	14.8	31.5	12	9.0	28		16			
11	11.9	18.9	8.7	25.2	12	3.2	25					
12	6.0	12.6	3.5	17.7	1	-1.8	30				4	
年 極値				42.0	8/ 7	-2.5	1/16		154		38	26

6 年 月	湿度 %			降水量 (mm)			量別降水日数					
	平均 9 h	最小	起日	総 量	最大 日量	起日	≥ 1 mm	≥ 10 mm	≥ 30 mm	≥ 50 mm	≥ 100 mm	≥ 300 mm
1	83.3	60.5	15	44.0	24.5	17	6	1				
2	72.6	51.0	9	68.5	19.5	21	12	2				
3	60.1	43.0	25	40.5	23.5	8	4	2				
4	57.7	41.2	14	114.0	47.0	12	7	2	1			
5	60.6	35.8	19	96.5	30.5	11	9	3	1			
6	65.2	36.0	2	133.5	24.0	20	4	7				
7	64.8	52.8	13	52.5	26.5	7	5	1				
8	58.6	45.3	5	64.5	25.0	21	4	2				
9	67.3	48.0	12	154.5	92.0	16	9	2		1		
10	68.3	48.5	4	38.0	19.5	21	7	1				
11	77.5	53.1	15	35.5	16.0	6	2	2				
12	81.2	53.5	3	29.5	14.0	9	4	1				
年 極値		35.8	7/19	871.5	92.0	9/16	73	26	2	1		